2017年6月1日　アクセス　（1976年11月10日第三種郵便物認可）　第485号

地方小出版 情報誌 アクセス

毎月1回　1日発行
購読料　定価150円
（本体139円）
年間1,500円（税込み）
振替　00120-0-19017

発行所　㈱地方・小出版流通センター
編集　アクセス編集委員会
〒162-0836　東京都新宿区南町20
TEL.03-3260-0355　FAX.03-3235-6182

オンデマンド出版の活用で
「出版の多様性」の持続と「品切れ重版未定」を死語に

文／デジタル・オンデマンド出版センター代表　浴野英生

『浮世絵にみる江戸美人のよそおい』原画の1部

『浮世絵にみる江戸美人のよそおい』ポーラ文化研究所

オンデマンド印刷の品質は目覚ましく向上している

20年近く前に日本でも出版のオンデマンド印刷利用が始まりましたが、当時の品質や製造価格は、まだまだ日本の出版界の要望に応えられるレベルではありませんでした。

そのために、なかなか普及してこなかった出版のオンデマンド印刷利用ですが、デジタル印刷機の急速な進歩と小ロット出版への時代要請を背景に、ようやく出版の一つの形態として選択されるようになってきました。

本稿では、実際の事例をもとにオンデマンド出版の活用報告とその可能性をレポートしたいと思います。

『浮世絵にみる江戸美人のよそおい』ポーラ文化研究所

本書は、もともとDVD-BOOKとして刊行されていたものを書籍化したものです。

仕様：A4判、並製、200頁（1色×96頁、4色×104頁）
入稿：PDFデータ

ご相談を受けたデジタル・オンデマンド（DOD）出版センターでは、オフセットでの見積もりもいたしましたが、初版想定部数が300部という小ロットとカラー図版と墨1色の解説文が見開きに配置される頁構成のため、小ロットが得意で、かつカラー頁を自由に配置できるデジタル印刷のオンデマンド出版をご提案しました。（**写真参照**）

DOD出版センターの標準の表紙加工はグロスPPで、本文用紙は上質紙ですが、浮世絵の風合いを活かすためにマットPPとマットコート紙を採用しました。

昨年末初版300部を納品したところ、新年早々200部の増刷、更に4月に100部と小刻みに増刷がかかっています。流通は地方・小出版流通センター扱いで、その他銀座のポーラ化粧品のショールームでも展示販売されているそうです。

地方・小出版流通センターのご担当者に伺ったところ、注文は図書館が一番多く、次いで客注が多いということです。これは、出版社が図書館流通センターへの事前案内と、エンドユーザに向けた独自のプロモーションをされているからだと思います。

販売価格が3,300円（本体）と少し高めな本ということもあり、一般書店への委託販売ではなく、図書館と直接読者へ向けた販売戦略を立てられたようです。それが、小刻みな増刷が可能なオンデマンド出版とうまくマッチングしているのだと思います。

在庫負担を軽減したい！

次にご紹介するのが、自宅マンションを仕事場にして活動されている出版社の例です。主に理工系専門書を出されているため、販売価格は3,000円代が中心です。流通は代行業者に委託されており、

その他の事例

販促用リーフレット

大学教科書

全集の新装版

主な販売書店は、紀伊國屋・ジュンク堂・アマゾンだそうです。

DOD出版センターで制作させていただている書籍のなかで、9カ月間で11刷合計450部という本があります。初版だけ100部で、後は50部と30部の小ロット増刷を重ねています。他の出版社にこの話をすると、最初からオフセットで500部から1,000部刷れば良いのにとおっしゃいます。しかしこの出版社は、倉庫に在庫を持つよりは、必要部数だけを制作し、流通業者に小刻みに補充することで、製作費よりも在庫の負担を軽減することの方を選ばれました。

「狭いマンションの部屋に在庫をうず高く積んでおくのもね(笑)」だそうです。

また、カバーなどの付物在庫はあるが、本身が品切れになった本の小ロット重版をオンデマンドに切替えられた出版社もあります。これによって在庫が減少し、倉庫を2か所から1か所に減らすことができたそうです。

もちろん、オフセットで500部1,000部重版するよりは原価率は高くなりますが、作りすぎの回避やキャッシュフローの改善を優先された判断です。何よりも、部数が見込めず重版出来ないまま品切れ（いわゆる品切れ重版未定）になってしまうことを避けたかったとのことです。

これまでの大量に刷った本が完売することを前提に原価計算などをする考え方から、多少割高の小ロットでも出版の継続に重きを置くという意識の変化が出版社に出てきているように思います。

ハイブリッド印刷とは？

制作部数によって、オフセットとオンデマンド印刷を使いわける方法をDOD出版センターでは「ハイブリッド印刷」と称しています。その事例も一つご紹介いたします。

年度版の問題集を発行している出版社で、毎年確実な需要はあるけれど1,000冊は売れず、かつ年度が切替わる頃に限って、採用があるという問題集がありました。そのため、昨年は営業的見地から刊行を見合わせていたそうです。

そこで私たちがご提案したのが「ハイブリッド印刷」です。初版をオフセットで600部、同時にカバーを倍数の1,200枚制作しました。新刊配本後の増刷については、オンデマンド印刷で本身のみ制作し、初版時に印刷しておいたカバーを装着いたします。制作原価率も初版をオフセットで抑えることにより、原価の割高なオンデマンドで増刷しても合計1,000部以下であれば、原価率は30%以内に収まる計算です。

これは、オフセットとオンデマンド両方の設備がある印刷会社で、同じ紙を使って制作できるからこそ可能な印刷方法です。

大量部数を見込めなくても出版したい企画については、この「ハイブリッド印刷」による出版も選択肢の一つかと考えます。

オンデマンド印刷による出版は、紙やインク、造本上の制約、また制作価格などの課題がまだあり、小ロット出版のバラ色の解決方法というわけではありません。ただ、出版の継続性や多様性を維持していくための選択肢として、現実的に検討できる時代になってきたかと思います。

デジタル・オンデマンド出版センターについて

最後にDOD出版センターのご紹介を少し。弊社は、印刷会社の欧文印刷と研文社、システム会社の光和コンピューターが出資して立ち上げた合弁会社です。2014年7月の東京国際ブックフェアで、初めて3社の協業によるスキームを発表し、テストマーケティングを重ねてきましたが、昨年11月に法人化し、本格的に事業を開始いたしました。

主な特色を4つほど挙げておきます。

1、ロール式インクジェット印刷機とトナー印刷機の2種類のPOD出力の他、オフセット印刷機も使い分け、最適な印刷方式とコストの最小化を実現。

2、WEB受発注プラットフォームで見積もりから入稿・校正・発注・納品まで一括管理。遠方の出版社でも不便を感じることなくご利用いただけます。

3、カラー品質へのこだわり。2色・4色は折丁を考えることなく、1頁ごとの頁単価計算で低コストを実現。

4、データのない書籍は高品質スキャニングで対応。貴重本は非断裁でもスキャニング可能。

詳しくは、ホームページでご覧いただけると幸いです。

http://www.dodpcenter.com/

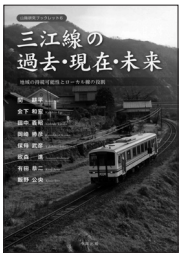
＊

（えきの　ひでお／デジタル・オンデマンド出版センター代表）

新刊ダイジェスト

※価格は税込（消費税率8%）表示です。

『三江線の過去・現在・未来　ー地域の持続可能性とローカル線の役割』●関　耕平ほか著



鉄道には「乗ると便利」といった直接的な価値のほか、「地域のシンボル」などの間接的な価値がある。地域振興に一定の役割を果たしているローカル線の例は数多く見られるが、交通体系は刻々と変化しており、すべての鉄道を存続させるのは現実的なことではない。JR三江線は、広島県三次と島根県江津を結ぶローカル線で、本数は1日4～5便しかない。江の川に沿って山間を蛇行する路線図からは「いかにも効率が悪そう」と、「のんびりしていて景色が良さそう」の二つの側面が見えてくる。平成30年春の廃止が決まっているが、本州で100kmを超す路線の全廃は初めてのことで、廃線の動きの波及が懸念される。本書は、三江線の歴史から現況、沿線地域の将来などを、すでに廃止になった可部線や災害による休止から復旧した名松線の事例を交えながら、克明に刻んでいる。ローカル線の存廃問題は、効率や採算だけでは回らない、地方と都市部の関係を端的に表している。

◆1200円・Ａ５判・161頁・**今井出版**・鳥取・2017/3刊・ISBN9784866110721

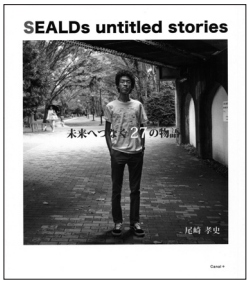
『シーボルト『ＮＩＰＰＯＮ』の書誌学研究』●宮崎克則著

シーボルト(1796-1866年)はドイツ生まれの医師で、幕末、長崎・出島のオランダ商館付きの医師となり、日本人に西洋医学を伝えた。日本各地を歩き、植物の研究に没頭しながら日本の文物、植物等を多数収集して、1830年に帰国。「NIPPON」や有名な「日本植物記」他を著し、西洋における日本学の祖とも言われた。

「NIPPON」は、日本の風景、風習、人物、産業、技術、文化、地図等を詳述し、それまでの日本紹介の書物を質・量ともに凌駕した。本書タイトル中の「書誌学研究」とは、各国に残る原本や資料を渉猟してこの本がどのように制作され、印刷、出版、配本、販売されたかを明らかにすること。まず執筆を終えた項目から順次印刷し、1832年より13回にわたって刊行、1851年に完結した。独語版のほか蘭、仏、露語の版も出た。図版367枚中、彩色図47枚もあり高価な本となる。印刷紙面は本文と図版に分けて配本、製本は購入者が行ったという。なお、図版を見るだけでも楽しい。邦訳本もある。

◆5400円・Ｂ５判・167頁・**花乱社**・福岡・2017/2刊・ISBN9784905327677

『ＳＥＡＬＤｓ　ｕｎｔｉｔｌｅｄ　ｓｔｏｒｉｅｓ　未来へつなぐ２７の物語　増補版』●尾崎孝史著



2015年から翌年にかけ集団的自衛権の行使容認に反対して国会議事堂を取り囲んだ大衆。組織的動員ではなく個人の意志によって集まったことから、民主主義の新しい姿を示したといわれる。その中心にいたのが、Students Emergency Action for Liberal Democracy - s（シールズ）と称した10代から20代前半の若者たちである。リーダーを置かず、個々の思いで行動し、参院選投票の呼びかけ、沖縄、福島へと拡散した。彼等の問いかけは何であったのか、平和と民主主義にどう向き合ったのか。写真とモノローグのスタイルによって構成する。友人に安保法制デモと聞いて「何それ？」と思った16歳の高校生。祖母から戦争体験した人でなければ気持ちは分からないといわれ、分からないから知ろうと考えた沖縄の21歳の女子大生。自分自身と社会を正面から見つめ、思い悩み、untitledのカンバスに何を描こうとしているのか。いいなあ若者たち。彼等になら未来を託せると心底思う。

◆1620円・220mm×196mm判・167頁・**Ｃａｎａｌ＋**・東京・2017/2刊・ISBN9784990934613

『境線写真集』●田淵康成編

境港は山陰の要津で鉄道もここを中心に発展しました。当地と米子を結ぶ境線は山陰で始めて敷設された鉄道ですが、貨物輸送が無くなった今では、鉄道自体に往年の賑わいがあるわけでありません。最近では漫画家水木しげるの出身地ということで、代表作「ゲゲゲの鬼太郎」にちなんだ妖怪での町おこしが盛んです。境線の各駅には妖怪の名前で別名がつけられ、走る車両には「鬼太郎」のキャラクターのラッピングが施されています。特産の白ねぎ畑の中ではカラフルな車体はひときわ映えて見えますし、また車両基地で休むその姿は、まるでラッピングで描かれた妖怪自身が一仕事終えて寛いでいるかのよう。様々な場面で読み手ひとりひとりに妖怪が語りかけてくるようです。利用者には「おかえり」や「いってらっしゃい」、本書を手に取る人には「境港においでよ」とか「大山がきれいだろ」といったところでしょうか。妖怪が誘うのんびりした境港への旅にあなたもぜひどうぞ。

◆2160円・240mm×250mm判・107頁・**今井出版**・鳥取・2017/3刊・ISBN9784866110431

売行良好書

期間：2017年4月15日～5月14日

［出荷センター扱い］ ※価格は税込（消費税率8%）表示です。

(1)『奇跡のシェフ』1512円・上毛新聞社　(2)『熊本地震２０１６の記憶』1944円・弦書房　(3)『琵琶湖を巡る鉄道』2376円・サンライズ出版　(4)『忘れられた人類学者（ジャパノロジスト）』2160円・忘羊社　(5)『熊本地震』1944円・石風社　(6)『ニホンという滅び行く国に生まれた若い君たちへ』1620円・白馬社　(7)『集団就職』2160円・弦書房　(8)『井の頭公園１００年写真集』3024円・ぶんしん出版　(9)『三江線の過去・現在・未来』1200円・今井出版　(10)『ブックトークのきほん』648円・東京子ども図書館　(11)『未来ちゃん』2160円・ナナロク社　(12)『占い八兵衛』1404円・小澤昔ばなし研究所　(13)『麗しのウィーン、音に魅かれて』1620円・書肆侃侃房

［三省堂書店神保町本店　センター扱い図書］ ※価格は税込（消費税率8%）表示です。

(1)『奇跡のシェフ』1512円・上毛新聞社　(2)『昭和プロレスマガジン　４２』1000円・昭和プロレス研究室　(3)『本の雑誌　４０８号』720円・本の雑誌社　(4)『東京かわら版　５月号』500円・東京かわら版　(5)『本屋大賞　２０１７』600円・本の雑誌社　(6)『教室ツーウェイＮＥＸＴ　４号』1620円・学芸みらい社　(7)『ニホンという滅び行く国に生まれた若い君たちへ』1620円・白馬社　(8)『たべるのがおそい ｖｏｌ．３』1404円・書肆侃侃房　(9)『奥武蔵登山詳細図全１３０コース』950円・吉備人出版　(10)『奥多摩登山詳細図（西編）』950円・吉備人出版

［ジュンク堂書店池袋店　地方出版社の本―センター扱い図書］ ※価格は税込（消費税率8%）表示です。

(1)『木村草太の憲法の新手』1296円・沖縄タイムス社　(2)『奇跡のシェフ』1512円・上毛新聞社　(3)『埼玉　鎮守の杜めぐり』200円・埼玉新聞社　(4)『ペコロスの母に会いに行く』1296円・西日本新聞社　(5)『奥多摩登山詳細図（東編）　大岳山・御嶽山・川苔山・棒ノ嶺　全１３０コース』950円・吉備人出版　(6)『忘れられた人類学者（ジャパノロジスト）』2160円・忘羊社　(7)『蘆名騒動』1836円・無明舎出版　(8)『加賀中世城郭図面集』5400円・桂書房　(9)『取り戻そう日本人の自立心』1836円・花乱社　(10)『熊本地震と震災復興』864円・熊本日日新聞社　(11)『旧鎌倉街道探索の旅１　上道・山ノ道編』2700円・さきたま出版会　(12)『ニホンという滅び行く国に生まれた若い君たちへ』1620円・白馬社

以下ホームページ等でも各種情報提供を行なっております。ご利用ください。
ＵＲＬ：http://neil.chips.jp/chihosho/　　ツイッター公式アカウント：@local_small

トピックス ―― ★★★

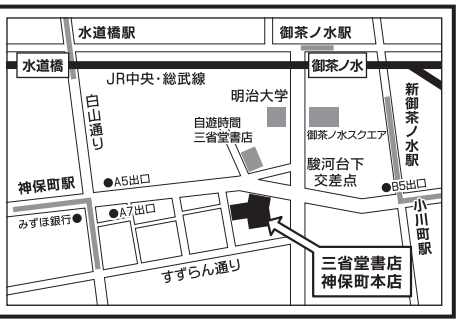
▼**長野県出版協会**より、昭和60年の発足以来続けてきた共同目録「信州の本」の発行や、Ｗｅｂ上での加盟出版社発行書籍の情報発信を終了するとのお知らせをいただきました。今後は出版業社および関連業者相互の情報交換と親睦を図る団体として活動していくとのこと。「出版業界を取り巻く環境の厳しさは、もはや尋常ではありません。当協会の会員社もピーク時には30近くでしたが、昨夏時点で19社に減っていました。活動の見直しに伴い、目録発行など柱となる事業はなくなりますが、今後も『出版県・長野』の矜持を持ち続け、出版に関わる者同士が知恵を出しあい、維持、発展に向けて模索を続けていく所存です。」（「長野県出版協会の活動について・ご報告とお礼」より）

▼例年のことですが、**2016年の取扱新刊データ**をまとめてみました。2016年1月～2016年12月の新刊は、書籍419社2596点、雑誌76社466点でした。書籍新刊はこの数年で最低の厳しい数字です。文芸等の自費出版的な刊行も減っていると推測されます。

郵便販売のご注文方法

◎お名前、お届け先（郵便番号、住所）、連絡先お電話番号、ご注文品の書誌名、冊数の必要事項を明記のうえ、下記までＦＡＸでご連絡ください。
◎送料は、冊子小包・メール便共実費でお送りさせて頂きます。基本的にメール便は、一冊２１０円でお送り致します。（メール便の到着は、発送してから３～４日かかります。）お急ぎの方、その他ご要望がございます場合はお気軽に下記までお問い合せ下さいませ。
◎なお書籍お買上総計（税抜き価格）が5,000円以上の場合は、送料をサービスさせて頂きます。

★地方・小出版流通センター
ＦＡＸ：０３－３２３５－６１８２

地方・小出版物のデータになります。綴じて保存してください。

BOOKS SANSEIDO
三省堂書店
営業のごあんない
神保町本店 ４階
地方出版・小出版物フロア
営業時間　10：00 AM～8：00 PM
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1
TEL. 03-3233-3312(代)
URL. http://www.books-sanseido.co.jp
本店4階売場では、地方・小出版流通センター扱いの新刊全点のほか、地域別に書籍を取り揃えております。また、地域ならではのタウン誌、趣味の雑誌も扱っております。